

平成30年度第3回印西市史編さん委員会議事録

- 1 開催日時 平成31年3月7日（木）午後2時00分～午後2時50分
- 2 開催場所 印西市立中央公民館 講座室
- 3 出席者 五十嵐委員長、中澤委員、木村委員、榎委員、村越委員、植村委員、宿城委員
- 4 欠席者 鎗木委員、大友委員、小林委員
- 5 事務局 生涯学習課 飯島課長、木下交流の杜歴史資料センター 小池所長、能勢主査、石川主査
- 6 傍聴者 0人（定員3名）
- 7 議題 （1）平成30年度事業報告について
（2）平成31年度事業計画（案）について

事務局：平成30年度第3回印西市史編さん委員会開会

印西市市民参加条例第11条の規定に基づき公開を宣言

生涯学習課長あいさつ

委員長：条例により議長を務めさせていただきます。

議事録署名委員の選出：五十嵐委員

議題（1）平成30年度事業報告について

議長：それでは議題（1）について事務局より説明をお願いします。

事務局：議題（1）平成30年度事業報告について、ご説明させていただきます。

内容読み上げ）

議長：ただいま平成30年度の事業報告がございましたが、何か質問はございますか。

事務局：追加してもよろしいですか。

議長：はい。

事務局：市史刊行事業の関係で、現在資料編の近現代編2の編集を行っておりますが、前回第2回委員会にて審議した中で、課題とされていた部分について、送付（回答）するのが大分遅くなってしまい、申し訳ございません。第2回委員会で課題となっていた委員会内部での考え方について整理し、近現代部会で資料選択した内容・原案をそのままの形で、委員会内部の了解も取れました。簡単ではございますが、以上を回答とさせていただきます。資料編の近現代編2は、3月刊行の予定で進めており、業者への引渡しは済んでいますが、資料掲載許可の関係で、若干問題があり、発行がやや遅れる可能性もあります。以上現状報告とさせていただきます。

議長：はい。それを含めまして質問がありましたら、発言願います。

委員：4ページの上部の収集宝田家調査について、事務局に質問です。これは何回行なって、延べ何人が参加したのかお答えください。

事務局：手元に細かな出席等の資料を持参してきておりませんので、正確にはお答え出来ませんが、毎月2回程度ボランティアの方々に参加いただき、資料整理を進める活動を実施しております。そのような活動に興味のある方や、歴史等の市民サークルの中から、希望者約15名の半数程（毎回7・8人程度）の方に参加いただき、順調に活動していただいております。先ほどの話にもございましたが、30年度事業報告にて説明したとおり、前年度資料を第1次として調査しましたが、燻蒸の問題で、新たに追加で今年度、調査を2回しました。その追加してお借りした資料を含めて燻蒸しました。現状、本塾の公民館で保管していますが、引き続き新しく出た資料を含め、ボランティアの方々に1年以降もまた協力いただきたいと、考えております。

委員：私もこれに携わった人間ですが、印西市で初めての市民参加の形で携わりましたので、希望があります。例えば、市民が5月から1月まで何回、延べ何人が参加したのか、30年度事業報告に入れていただきたい。資料の右の方を見ますと、「普及活用事業関連行事：11月25日2回17人、見学者数：224人」とか、「市史講座」、例えば「木下河岸旧記を読む」では、延べ88人と記載があり、このようなものと同等の重要な活動を行なったと思うので、この一行だけでは、あたかも市のみで行なったような書き方は、一市民として、いかがなものかと思えます。

議長：はい。そう難しいことではないかと思われまますので、今後このようにお願いしたいと思えますが、よろしいですか。

事務局：はい。

委員：よろしくお願ひします。

議長：他に何か質問はありますか。

委員：はい

議長：どうぞ

委員：「購入」のところで、マイクロフィルムと記載がありますが、これはどういう資料のマイクロフィルムですか。

事務局：主に新聞、明治期の新聞資料です。

委員：前のキャビネットに入っているものですか。

事務局：はい、キャビネットに入っているものです。

委員：更に買い足したのですか、前にあったものですか。

事務局：いえ、昔からあるもののことです。

委員：今年度買ったという意味ではないですね。

事務局：はい。

委員：ありがとうございます。

議長：それは、何新聞ですか。

委員：いろいろだと思えます。

事務局：このマイクロフィルムの新聞に関しては、だいぶ早い時期に購入したもので

す。明治新聞雑誌文庫等で、購入できるものの内から、千葉県に関連するものを購入しております。購入時期は、古い時期のものですが、その後、また新しい新聞等も発見されていますので、随時そういったものについても、補足の収集等を行なっています。

議長：今回、買ったわけではないということですね。

事務局：はい。

委員：いいですか。

議長：はい。

委員：古いものだとすると、ビネガーシンドロームはどうですか。

事務局：においは、ないですね。

委員：将来的には、問題になりますよね。

事務局：印旛の資料館のマイクロフィルムは、少しそのような症状が出ています。

早い段階からそういった問題も指摘されていまして、銀塩のフィルム等は区別して、収蔵の状況を分ける等の措置ですとか、缶などのケースではなく、中性子の箱等にいれるとか、そういった対応はしているというところもあってなのか、どうか、わからないのですが、今のところそういう症状はでていません。

委員：文書館では、検視のときに撮ったマイクロフィルムを、やはり時間とともに劣化する可能性があるため、それを防ぐのに、空気を空にして、かびないようにしています。

事務局：現状で、マイクロフィルムスキャナーが昨年度購入できましたので、焼付けなども進めております。徐々に動かしているところではあります。

委員：使えれば、いいのですけどね。

議長：近代の機器は経年ではないので、どれだけ使えるかまだわかりません。

委員：CDだって、将来的にはどうなるか、わかりません。

議長：昔は、コピーはだめだと言われていたましたが、40年くらい前のコピー機でとった、コピーですが、まだよく読めます。

委員：それは、保存方法がよかったからです。

事務局：光に当てると一気に劣化が進んでしまうかもしれません。

議長：少し、暗い部屋に置いてありますが、意外と維持しております。

委員：環境によっても、変わります。

議長：他に何かありますか。それでは、平成30年度事業報告については、了承でよろしいですか。

委員：はい。

議長：それでは次に進みたいと思います。平成31年度事業計画（案）について事務局より説明をお願いします。

事務局：はい 議題（2）平成31年度事業計画（案）について、ご説明させていた

できます。(内容読み上げ)

議長：ただいまの平成31年度事業計画(案)について何か質問またはご提案がありましたら、ご発言願います。

委員：はい。市史刊行について、執筆予定の本数が多いため載せていないのかも知れませんが、先日の部会長会議のときに確か出たと思いますが、もしボリュームが多すぎたら入れなくてもいいですが、翌年は、出ない可能性もありますので、近現代のリレーのものの、要約したものを載せていただきたい。11月に終わるのでしたら、講演録は、きちんとした物で出なくても要約みたいなものを掲載して欲しいです。あの時はそういう話題になったと思います。それから、もうひとつ質問ですが、事業体制について、非常勤職員の人数と日数が記載してありますが、編さん班の人数はまだ決まっていますか。

事務局：基本的には、現状通りということになっています。

委員：現状ですか。

議長：この前、私が「もう少し職員を増やしてくれ」と言ったら、「他の市町村と比べると、まだ良い方です。」というお話も出ましたが、せめてもう一人は、専門職が欲しいです。ひとつ課長に要望します。

課長：人事のことですので、要望するようにします。

議長：今、どこの市役所に行っても非常勤ばかりで、ただ人を置けばいいという考えの組織という気がします。素人が多く、どこに行っても、市史専門の職員が育たないという嘆きは方方で聞かれます。他に意見ありますか。

委員：7ページのアの(b)史料の整理ですが、「宝田家」と書いたら良いのではないですか。実績のところでも記載されていない。また、今回の事業計画で、実行すると決まっていて、市民に散々伝えているのならば、堂々と書いて全然おかしくない。別に宝田家に見せたからといって、問題であることは全く無いと思いますし、むしろ市史編さん委員会の、大きな事業ですよ。この資料整理で、「宝田家他」でも良いのですが、市民が毎回10人くらい、無償ボランティアで参加してくれているので、宝田家というのが、入ってもいいのではないかと僕は思います。

議長：これから、宝田家以外もでてくるかも知れませんから。

委員：出すと何か支障があるのですか。

事務局：歴史資料センターそのものの事業内容のご審議をいただいているわけでもないものございまして、市史編さんに関わる部分で、基本的に報告させていただいているところがベースにあります。また、ボランティアにあてる予算を要求していますが、結論的には、予算措置がされていませんので、市民ボランティアの問題を資料の中に、積極的に書き込んでいません。しかし、センター事業の中で、そのようなものを形として残していきたいと考えています。

委員：センターが出来る前に編集委員会で、ボランティア制度を導入することを検討したと思いますが、「ボランティアの方々に参加していただくことによっ

て普及活動になる」と参加の方法まで議論した資料が、そのままになってしまっているのは、センターになったからなのではないでしょうか、あるいは、活動が上手く進まないためかなと解釈しております。実際に、宝田家の資料整理を行なっているの、資料に残すことによって、参加希望者がまた出てくるかもしれないし、学校にも資料があるという情報が入るかもしれません。センター創設前の検討事項が継続されているか伺いたいです。

事務局：市史の事業の中で、そのような検討事項を、項目だてて、進めていくかについては、現状、答えが出ていません。しかしながら、資料センターという資料保管する場所ができましたので、そこでの事業の延長上で、ボランティア活動等の制度を今模索しているところではあります。実際、ボランティアに具体的に参加いただき、作業的などころは、進めています。現状では資料整理の仕方を勉強していただいているところもありますので、本格的に編さん事業の中に位置づけて取り組む方向で考えてはいますが、現状では中々ボランティア育成に時間をさくことができません。以上が明確に資料に掲載していない理由です。

委員：計画の中に入れないのであれば、今後の課題として、位置づけた方が具体化に向けて継続につながるのではないのでしょうか。

事務局：項目の中にはボランティア制度を入れてないわけではございません。

委員：ボランティアという言葉は、この資料に出ているのでしょうか。

事務局：宝田家文書の整理・調査の部分で記載していますが、先ほどご回答したように、書き込んでいこうとは思いますが、現状で明確にそのボランティアの規定等を審議した経緯は把握しておりますが、それに基づき宝田家の調査を実施してはおりませんので、現状は、準備期間と捉えていただきたい。

議長：早く実施できる体制を確立いただきたいと思います。他に何かございますか。それでは、平成31年度事業計画について、ご承認いただけますか。

委員：はい。

議長：それでは、異議がないということで、このように決定しましたので、次年度にも向けて、頑張ってくださいと思います。

それでは、本日の会議を終わりたいと思います。どうも長時間にわたり、ありがとうございました。

平成30年第3回印西市史編さん委員会の議事録は事実と相違ないので、これを承認する。

令和2年9月10日

印西市史編さん委員会

議事録署名委員 五十嵐 行男 印